２　学習意欲を育て，他者と協働しながら考え続ける力を育む授業づくりの実際

「低音や和音の響きを感じ取って演奏しよう　－『茶色のこびん』『こきょうの人々』－」（第５学年）

（１）育成したい「思考力」と学びに熱中する子どもの姿

【題材で育成したい「思考力」】

『茶色のこびん』や『こきょうの人々』の曲想や歌詞から想像した情景と結び付けながら，音の重なりを自分の表したい情景に合うように創意工夫する力

主旋律と伴奏の音の重なりの変化による曲想の変化に興味をもち，主旋律と伴奏との音の重なりを聴き合いながら，より自分の思いや意図に合う演奏を目指して練習を続けている。

【学びに熱中する子どもの姿】

本題材では，明るく楽しい感じの『茶色のこびん』や，静かでゆったりとした感じの『こきょうの人々』の曲想や歌詞から情景を思い浮かべ，主旋律と，伴奏となる低音や和音との重なりや，さまざまな楽器の音の重なりを自分の思いや意図をもって，表したい情景に合うように工夫することを目指した。

子どもたちは，低音や和音と主旋律との重なりから生まれる響きの美しさを感じ取ったり，伴奏や音色が変化することで曲の感じも変わることに気付いたりした。そして，自分の思いや意図に合うように音の重なりを変化させる楽しさに気付き，自分たちの演奏に生かしていった。『こきょうの人々』では，「リコーダーの主旋律だけでなく，低音や和音の伴奏をつけると広い河の感じになるよ。」「伴奏の感じが変わると曲の感じも変わるよ。流れる河の感じをもっと表すために伴奏を変えたい。」「輝く河の様子をもっと表したいな。主旋律と伴奏の音色を変えたい。」等と，曲想や歌詞から思い浮かべた情景と自分たちの演奏を結び付けながら，新たな問題を見いだし，主旋律と伴奏の音の重なりを繰り返し練習していった。その後，似たイメージをもつグループどうしで互いの演奏を聴き合った。「きらきらと輝く河のイメージを表すために，僕たちは，主旋律を鉄琴，伴奏をオルガンで演奏したよ。」「主旋律を鉄琴にしたんだね。同じ河のイメージだけど，私たちは反対で，主旋律をオルガン，伴奏を鉄琴で演奏したよ。」「○○さんたちは，同じ河のイメージでも，主旋律を鉄琴，伴奏を木琴にしたんだね。」等と，聴き合った演奏を基に話し合う中で，「主旋律と伴奏を演奏する楽器を反対にするだけでも，感じが変わるよ。」「使う楽器を変えると，いろいろな音の重なりで表せるね。友達の工夫も取り入れると，もっと思い浮かべた様子に近づけられそうだ。」と，より自分の思いや意図に合う音の重なりを工夫したいという意欲が高まっていったのである。

（２）子どもの意識の流れを大切にした題材構成について

学習意欲に関わる子どもたちの実態（35名） ⇨	学習意欲を育てる題材構成の工夫
・質問紙調査の結果では，音楽が好きな一番の理由として22名が楽器の演奏や合奏を挙げていた。	・主旋律と低音や和音との音の重なりを感じ取ることに加え，さまざまな楽器の音の重なりも扱った。
・一部の積極的な子どもたちの意見で，表したい情景や演奏する楽器が決まってしまうことがあった。また，本来の目的である情景を表すことより，上手に演奏するということに意識が向いてしまう傾向が見られた。	・『こきょうの人々』を聴いて感じたことを話し合った。個々が歌詞の情景を表すために取り組んでみたいと思ったことを基に，課題解決の順序を子どもたちと考え，より自分の思いに合う演奏を目指して練習に繰り返し取り組めるようにした。

（３）子どもの意識の流れと学習意欲への働きかけ（総時数　８時間）

次	主な子どもの意識	学習意欲への働きかけ
第一次	① 『茶色の小びん』をリコーダーで吹こう 楽しい感じの曲だね。繰り返すところが難しいけれど吹けたよ。 低音があるよ。キーボードで弾いてみたいな。 いろいろな楽器で演奏したら，楽しい感じになるかな。 ② グループでリコーダーと低音を合わせよう リコーダーとキーボードの低音が重なるときれいだね。 他のグループの演奏を聴きたい。 速度を変えたいな。 ③ 様子に合うようにグループで工夫して，発表しよう 音が重なると楽しい感じになるね。 速くなると感じが変わるね。 他の曲でも様子に合わせて合奏してみたいな。	①～⑧　学習課題と達成度，振り返りを書く時間を設定し，頑張りに気付いたり，課題を捉えたりできるようにすることで意欲を高めた**【振り返り：満内発的な強化】**。 ②⑤⑥　自分の思っている演奏になるように，適宜さまざまな音色の重なった演奏や分散和音での伴奏を聴かせた**【教材：注変化性】**。 評価規準（第１次） 思い浮かべた情景と音の重なりを結び付け，自分の思いに合う音の重なりを工夫している。
第二次	④ 『こきょうの人々』を歌い，感じたことを伝え合おう ゆったりとしていて，静かで落ち着いた感じがするよ。 リコーダーで主旋律を演奏したいな。 低音や和音と合わせて練習してみたい。 いろんな楽器で合奏したいな。 ⑤ リコーダーと低音や和音を合わせよう ゆっくりなので低音は弾きやすいね。Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ７の和音にリコーダーを合わせると広い河みたいに感じるよ。 ゆったりした河の様子をもっと表せないかな。 ⑥ 様子に合うように，和音の伴奏を選んで合わせよう ①がゆったりしていいな。 ②は流れが速い感じだ。 ③は跳ねているみたい。 違う伴奏を自分で考えたい。 選んだ伴奏とリコーダーを合わせると，思い浮かべた様子に近づいてきたよ。 もっと様子に合うように楽器の音を重ねたい。 ⑦　本時（７/８） 様子に合うように主旋律と伴奏の音色を変えて音の重なりを工夫しよう ゆったりした河だよ。 きらきら輝く河だよ。 魚のいる河だよ。 主旋律はオルガン，伴奏は鉄琴にするよ。 主旋律は鉄琴，伴奏はピアノにするよ。 主旋律は木琴，伴奏は鉄琴にするよ。 みんな，どんな音の重なりを選んだのかな。聴いてみたい。 音色が変わると感じが変わるね。 あの工夫を取り入れたい。 もっと練習してみんなに聴いてほしいな。 リズム楽器も入れたい。 ⑧ 工夫した『こきょうの人々』を発表しよう 主旋律と伴奏の音をいろいろに重ねて思い浮かべた様子を表せたね。	②③⑥⑦⑧　グループ活動を取り入れることで新しい視点に気付く場を設定し，自分の演奏をよりよくしたいという思いにつなげた**【グループ活動：関動機との一致】**。 ⑦　数種類の楽器を用意して音色の重なりを試す時間を設定し，より思いに合う演奏にしたいという意欲を高めた**【教材：注探求心の喚起）】**。 ⑦　互いに聴き合う場を設定することで，友達の工夫に気付かせ，自分の演奏に生かせるようにした**【聴き合う場：自成功の機会】**。 ③⑧　グループで発表し，互いの演奏の良さを認め合う場を設定した**【発表：満外発的な要求】**。 評価規準（第２次） 思い浮かべた情景と主旋律と伴奏の音の重なりを結び付け自分の思いに合う音の重なりを工夫している。

（４）学習意欲を育てる働きかけと子どもの姿

①　課題の設定　→　課題を解決する（７時間目）

前時までに，子どもたちは，主旋律をリコーダーで，低音や和音の伴奏をピアノで重ねて演奏し「もっと思い浮かべた様子に近づけたい。」という思いをもって練習を続けてきた。

【音の重なりと様子をつなぐ】

本時の導入では，まず，これまでの演奏と思い浮かぶ様子をイラストに表したものをつなぎながら，低音や和音が加わることで音の重なりや響きの美しさが深まっていったことを確認した。その後，より自分の思いに近づけるために「様子に合わせて主旋律と伴奏の音色を変えて，音の重なりを工夫しよう」という学習課題を設定した。その後，思い浮かべた情景が似ていて，選んだ伴奏が同じ子どもどうしでグループをつくり，音の重なりを試す時間を設定した**【グループ活動：関動機との一致】**。

グループ活動では，リコーダーの主旋律を軸として，それに音を重ねる楽器としてオルガンや鉄琴，木琴，数種類のマレットを用意することで，より自分の思いに合った音の重なりを選択できるようにした**【教材：注探求心の喚起】**。

子どもの姿【対話場面】

Ｔ：グループごとに，重ねたい音色で試してみましょう。

【グループ対話（Ａグループ）】

C1：木琴を主旋律にしようよ。僕は主旋律は難しくて弾けないけど･･･。

C2：鉄琴ならちょっとできるよ。

C1：（友達の考えを聞いて）鉄琴の方が音が高いから合いそうだね。ゆっくり合わしてみよう。

【グループ対話（Ｂグループ）】

C3：（木琴で毛糸のマレットを選び伴奏を弾く。）強かったかな。

C4：いや，木琴を主旋律にしてみたらどうかな。オルガンを伴奏にして。

C3：じゃあ，逆にしてみようか。（演奏後）木琴の方が音が小さいから･･･。

その後，友達の選んだ音の重なりを聴き，どのような音の重なりで表すかを似たイメージをもつグループどうしで話し合う時間を設定した**【聴き合う場：自成功の機会】**。さらに，それぞれのグループがどのような思いをもって音の重なりを選んだのか全体で対話する時間を設定した。

子どもの姿（対話場面）

【グループ対話（Ｃグループ）】

C5：木琴を試してみよう。（ゴムのマレット）

C6：鉄琴を聴いてみたいなあ。

（他のグループの鉄琴演奏を聴いて）

C7：鉄琴は輝きを表しているみたいになってしまうよ。私たちは自然を表すから･･･。

C5：やっぱり木琴の方が合いそうだね。

【全体対話】

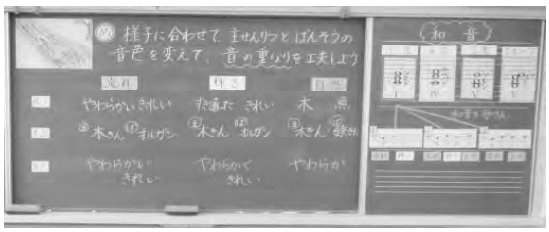
Ｔ：どんな音の重なりにしたのかな。

C8：河と自然の様子を表すので，主旋律を木琴，伴奏を鉄琴にします。

Ｔ：どうしてかな。

C9：木琴は，河の周りの木の様子だからです。

C10：鉄琴は魚が水から跳んで跳ねている様子です。
　　プラスチックのマレットは音が強すぎたから毛糸のマレットにしました。
Ｔ：毛糸のマレットにしたらどうだった？
C10：柔らかい感じになりました。



C10の子どもは，グループ活動では自分から演奏する姿は見られなかったものの，友達の演奏や他のグループの演奏を聴き，音の重なりから感じたことを自分の思い浮かべた情景と照らし合わせた発言が見られた。

②　課題の解決　→　新たな問題を見いだし，表出する（８時間目）

次時では，それぞれの選んだ音の重なりについて対話する場面を設定し，より自分の思い浮かべた情景に合う演奏にするためにはどうすればよいのか，個々に新たな問題を見いだす時間を設定した。その後，グループごとに課題解決のための練習をして，友達の前で発表する時間を設定した**【発表：満外発的な報酬】**。

子どもの姿（対話場面）

Ｔ：鉄琴を選んだグループがあまりなかったけれど，どうしてかな。
C3：鉄琴の音はキンキン響いて，輝きを表しているみたいでした。私たちのグループはゆったりした流れを表すから，優しい音色の木琴の方がいいと思いました。

C11：音がきつすぎて，河の感じが表しにくかったからです。
Ｔ：様子に合わなかったからですね。もう，十分表せたかな。
C12：まだです。違う楽器も重ねたいです。
C13：きらきら輝く河の様子を，トライアングルで表してみたいです。
C8：僕たちは船が通る音を，太鼓の音色で表したいです。
Ｔ：様子を表すために，別の音色も重ねてみたいということですね。

C8の子どもは，前時，楽器の音色を選んだ理由を明確には発言できなかったが，全体での対話を通して，表したい様子と音色を具体的につなぎ，自ら新たな問題を見いだすことができた。このように，表したい情景と音色をつなぐことで，「ゆったりと流れる広い河を表すために，オルガンの優しい音色と木琴の柔らかい音色でゆっくりと演奏したい。」と，想像した情景と結び付けながら，音の重なりを自分の表したい情景に合うように創意工夫していった。

（５）考察

第１次での学びを生かして，第２次では子どもたちの見いだした問題を基に，より子どもたちの思いに合うような流れで題材を構成した。そうすることで，振り返りシートには「主旋律と伴奏を重ねたい。」や「リコーダーだけでなく他の楽器の音も重ねたい。」といったような，次に取り組みたいことへの記述が増えた。それらを基に，練習をくり返すことで，「思考力」が育成され，音の重なりを，より自分の思い浮かべた情景に合うように創意工夫する姿が見られた。

ただ，それぞれの思いをもって演奏に取り組むものの，演奏技能が高まっていなかったり，情景と音色がうまくつながらなかったりした子どもがいたために十分な学び合いができなかった。ふだんの授業において，一人一人の演奏技能を高めておくと同時に，情景と音色をつなげるための働きかけが必要であったと考える。そうすることで，本来の目的である音の重なりを聴き取ったり，その音を自分の思い浮かべた情景と結び付けたりすることができ，さらなる創意工夫へと高まっていったと考える。